

国語科学習指導案

府中町立府中中学校 富田谷 敬子

- 1 日時 平成17年1月11日(火)
- 2 場所 府中町立府中中学校1年4組教室
- 3 学級 第1学年4組(32名)
- 4 単元名 「対話をしよう」
- 5 単元について

(1) 単元観

中学校学習指導要領国語では、第1学年の「話すこと・聞くこと」の領域で、「自分の考えや気持ちを相手に理解してもらえるように話す」ことが、指導事項の一つとして挙げられている。このことについて、中学校学習指導要領解説国語編には、「自分の考えや気持ちを明確にしておく」こと、「聞き手である相手の立場や話す場面などを考える」こと、「話す速度や音量、言葉の調子や間のとり方、語句の使い方や文の整え方、話の展開の仕方などを工夫して話す」こと、が求められているとある。そこで本単元では、話合いの基本である対話学習を行うことにより、自分の考えを相手に伝える力を高める。

(2) 生徒観

授業に積極的に参加しようとする生徒が多い。「話すこと・聞くこと」の授業でも、意欲的にスピーチ等に取り組む生徒が多い。しかし、これまで一方的な独話の活動しか行っていなかったために、自分の考えを相手に伝えようとする意識が低く、またその力も育っていない。

(3) 指導観

指導にあたっては、相手意識・目的意識・方法意識を明確にもたせた対話学習を2回行い、自分の気持ちを相手に伝える力を高めることができるようにする。具体的には、対話の相手及び目的を設定し生徒に意識させた上で、目的を達成するためには相手にどのように話せばよいかを考えさせて実施する。さらに、第2回対話学習は、第1回対話学習より複雑な活動が必要になるように設定する。

6 単元の目標

自分の考えや気持ちを相手に理解してもらえるように話すことができる。(「話すこと・聞くこと」ア)

話す速度や音量、言葉の調子や間のとり方、語句の使い方や文の整え方、話の展開の仕方などを工夫して話すことができる。(「言語事項」(1))

7 単元の評価規準(観点別)

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
対話学習を意欲的に取り組もうとしている。	自分の考えや気持ちを相手に理解してもらえるように話している。	話す速度や音量、言葉の調子や間のとり方、語句の使い方や文の整え方、話の展開の仕方などを工夫して話している。

8 単元指導計画（全8時間）

時	学習内容	評価の観点				
		関	話	言	評価規準	評価方法
1	トークゲームによって、相手や目的による話し方を学習する。				これから行う対話学習を意欲的に取り組もうとしている。	観察
2	ビデオやワークシートを使って、対話の仕方を学習する。				自分の考えを相手に伝えるためには、どのように話せばよいかを考えている。	観察 ワークシート
3	対話1の目的を知り、話したいことの内容を確認する。				なぜ対話1をするのかについて理解した上で、話す内容を項目別にワークシートにまとめることによって、話したいことの内容を明らかにしている。	ワークシート
4	対話1をする。 「ピンポントークをしよう」				対話をするときに、メモを見ながら話す速度や音量、言葉の調子や間のとり方、語句の使い方や文の整え方、話の展開の仕方などに注意して、相手に自分の考え方が伝わるように話している。	観察 評価表
5	対話1を振り返り、次回の対話の課題を明らかにする。				第2回の対話をより良くするために、課題を見つけている。	ワークシート
6	対話2の目的を知り、話したいことの内容を確認したり、話の展開を考えたりする。				なぜ対話2をするのかについて考えた上で、話す内容をワークシートにまとめることによって、結論を明らかにし、話の展開の仕方を考えている。	ワークシート
7	対話2をして、対話の結論を発表する。				対話をするときに、メモを見ながら、話す速度や音量、言葉の調子や、間のとり方、語句の使い方や文の整え方、話の展開の仕方などを工夫して、相手に自分の考えが伝わるように話している。	観察 評価表
8	学習のまとめをする。				意見を出し合い、自分の学んだことをまとめようとしている。	ワークシート

9 本時の展開

(1) 本時の目標

相手に自分の考えが伝わるように、分かりやすく話すことを考えながら、1回目の対話をする。

(2) 準備物

振り返りカード ピンポン 袋 記録用紙 自己評価カード 観察者カード

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意事項() (「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て)	評価規準	評価方法
1 前時の復習をする。 ・ 第1回対話学習をする目的を理解し、自分の考えや気持ちを明確にしたことを確認する。	前時の授業の振り返りカードを紹介する。		
2 本時の目標を提示する。	授業の振り返りカードに目標を記入させる。		
3 対話1をする。 「ピンポントークをしよう」をする。 ・ メンバーの確認をする。 ・ やり方を確認する。 ・ じゃんけんで対話者1, 2を決める。 ・ 対話者1がピンポンを引く。 ・ 対話者1, 2は対話をする。 (2分40秒) ・ 記録・観察者1, 2は記録をする。 ・ 対話者は自己評価カードに、記録・観察者は観察者カードに記入をする。(1分) ・ 交代して対話者2が同じようにする。	4人グループになって、対話者(2名)記録・観察者(2名)でローテーションさせる。 話の中心は「ゆっくり・強く・大きく」話すように、個別に支援を行う。	対話をするときに、メモを見ながら、話す速度や音量、言葉の調子や間のとり方、語句の使い方や文の整え方、話の展開の仕方などに注意して、相手に自分の考えが伝わるように話している。 Aの見取り 対話をするときに、話す速度や音量、言葉の調子や間のとり方、語句の使い方や文の整え方、話の展開の仕方などを工夫して、相手に自分の考えが伝わるように話している。	観察 評価カードの記述

<ul style="list-style-type: none">・ 対話者と記録・観察者が交代して、同じようにする。			
4 本時のまとめをする。 <ul style="list-style-type: none">・ 本時の目標について、自己評価をする。	授業の振り返りカードに記入させる。		振り返りカード